

研究授業（2・3年算数科「長方形と正方形」「円と球」
梶原先生9月15日）を終えて

「わかった」「できた」を実感できる算数科の授業
～数学的活動を通して学ぶ楽しさやよさをあじわう授業をめざして～
考える力・協働する力・がんばり抜く力

永田先生の授業までの「共通実践」と「取組の検証」

視点①自力の差をうめるための導入や見通し。

視点②子どもたちに任せる授業スタイル。

視点③自分の成長に気づく振り返り。

どちらでもない
理由は？

同じ長さになる
並び方は・・・



（鴨川）先生の改善点
対話しやすい場の設定や課題設定の工夫をする。

（廣田）先生の改善点
目的に応じて学習形態を変え、子どもたちが自然に対話できるような雰囲気づくり。

（永田）先生の改善点
自力解決がなかなかできない児童のために、導入を大切にして、見通しが持てる工夫を行う。

（大津山）先生の改善点
学習の流れをしっかりとつくっていくことで、自分たちで行動できるように育てていきたい。

（前田）先生の改善点
子どもの実態把握と見通しを持った導入。

（小坂）先生の改善点
学習リーダーがリードして、子どもだけで話し合ったり、解決法を提案したりする時間設定をしていく。
体験的活動からICTを活用し、実感的な思考力を高めていく。

（富田）先生の改善点
授業の流れの見通し、学習内容の見通しをしっかりと持つことができる授業。



研究授業、ありがとうございました。複式学級の授業を初めて見たという方も多かったようですが、いかがだったでしょうか。子どもたちが自分たちで学習を進めている姿を見ていただくことができ、良かったです。学習リーダーを中心にしていますが、いろいろな方法があると思います。子どもたちが主体的・対話的で深い学びをできるのか、どこを子どもたちに任せるのか、試行錯誤しながらこれからもがんばっていきましょう。